

「SSTR 参加と能登一周の旅」 ～ ライダーの旅に迷子、雨天はつきもの ～

前嶋 満 (技術士：電気電子)

2022年5月26日夜中3:00。今回の旅の相棒に荷物を積む。忘れ物の無きことを確認し、ヘルメットを装着。キーを挿して回すと、ライトが点灯しインパネの照明が灯る。セルボタンを押すと、甲高いセルの作動音とともに800ccのエンジンが始動し、マフラーから低い鼓動が響き渡る。左足で1速にギヤーを入れた後地面に足を着き、右足は地面から後輪のブレーキペダルをつま先で踏む。左手のクラッチを緩めながら右手でスロットルを回し、後輪のブレーキペダルを外す。予定通りSSTRのスタート地点への移動開始である。



相棒のバイク

SSTRとは“Sunrise Sunset Touring Rally”の略で、日の出とともに東海岸で自分が指定した場所をスタートし、日没までに日本海側の千里浜なぎさドライブウェイ(石川県羽咋郡)ゴールする単純明快なイベントである。ルールは、高速のSA/PAで1ポイント、道の駅で2ポイント、指定の道の駅で3ポイントを獲得しながら、計15ポイントを集めてゴールの千里浜を目指すというもの。SSTRは、世界的なオートバイ冒険家である風間深志氏が考案したオートバイによる独奏的なツーリングイベントである。2022年で10周年を迎える本イベントには、2022年は8881台のエントリーがあり、5月21日～28日の開催期間で千里浜を目指した。私が出発する東海岸は、江の島を設定。江の島の日の出の時間は4:31。この日の出の時間までに江の島に到着を目指すため3:00家を出発。江の島には、4:20

頃到着。日の出の時間を待って4:35に出発。出発時にスマホで位置情報とオドメータを開催元作成のアプリを使用して登録。ではSSTRスタート。



5月26日の日の出(江の島大橋より)

最初の出発地は、「足柄・金太郎のふるさと」の道の駅。創造工学研究所側の指定の道の駅であるので、早くも3ポイントを獲得。06:06の早朝なので店は開

いていない。トイレ休憩をしてすぐに出発。同じSSTRに参加のバイクを見かけた。ゼッケンをつけているので、すぐに判断できる。私のゼッケン番号は1872で、正面と左右に貼付(イベントの指定位置)。この番号は、ゴール時に写真撮影があるので、その認識にも使用できる。もちろん、写真のアルバムも購入手配済。先を急ぐので、大井松田ICで東名高速に入り、御殿場まで瞬間移動。途中の足柄SAで休憩と1ポイントを獲得。時間は7:12なので、SAでサンドイッチとコーヒーを購入して朝食。御殿場を降りて山中湖方面移動中にあった“すばしり道の駅”でトイレ休憩と2ポイント獲得の処理(7:40)。出発して次の道の駅である“富士吉田”に立ち寄り2ポイント獲得申請。標高が高いためか、気温が低くなってきた。上だけレインスーツを羽織って出発。松本ICを目指すため、富士吉田ICより中央高速を使用し瞬間移動。諏訪湖SAに10:24に到着し、トイレ休憩と2ポイント獲得処理。ただ、諏訪湖SAまでに1カ所SAに立ち上がったが、ポイント申請を忘れて出発。これは、道の駅の2ポイントで挽回することとした。ポイントを得る仕組みにしているのは、“それだけ休憩をしっかりとりなさい”とのことと勝手に理解しているので、休憩を多くすることは良いことと言いついて聞かせてレインスーツを脱いでバイクに颯爽と乗って即時出発。松本ICを降りてから国道158を走行し、最初の道の駅である”風穴の里“で休憩と2ポイント獲得処理。11:43であるが、当初の予定より1時間程度の遅れ。ゴールに間に合わないことはないので、問題なし。安全運転で高山方面を目指す。途中平湯付近で天候が怪しくな

ってきたが、予報では雨は16:00頃であったので、雨が降る前に何とか千里浜に急ぐこととした。しかし、途中の安房トンネルを抜けるとそこは雨だった(チーン)。あまり強くなかったので、上だけレインスーツを着て出発。後続のバイクも後ろで停止。お互いSSTRの参加者。「降られましたね」と声を掛け合った。先に出発して14:14に”ななもり清見”の道の駅に到着。ここで、昼食と休憩をとって出発とした。ただ、この道の駅を後2回訪れることになるとは、思ってもみなかった。



昼食後、2回訪れた道の駅

バイクでのSSTRでは初めて訪れる場所が多く、時間制限があることから、バイク用のナビを新規購入。SSTRで初めての使用であり、使用方法をマスターできていない。車の様に画面が大きくなり詳細な地図情報を出さないの、現在位置がつかみづらい。その代わり大きな矢印を表示して進むべき方向を示してくれる。ただ、画面半分を矢印に占領されるので、途中で一旦矢印表示をキャンセルした。しかし、この処理がいけなかった。”ななもり清見”を出発後、しばらく走行した山道で雨が本降りとなった。停車して道端の木の下でレインズボンを装着後、スタート。そのまま千里浜に向かうと考えたが、ポイントがギリギリと考えたので念のためもう1件の道の駅を目指した。最後になる”桜の郷 荘川”の道の駅に15:36到着。ここから千里浜まで高速を使用して1時間30分程度の距離。よって、千里浜には17:00頃到着できる見込み。日の入りが19:04なので、時間的には十分間に合う。道の駅の横にある荘川ICから北上して千里浜を目指すことにした。しかし、途中の飛騨清見ICの立体交差で進むべき道の選択を間違えた。左道路へのコメント表示が出ていたが、地図上は右に小さい矢印があったように見えた。ここで誤って国道158に降りることとなり、”ななもり清見”の道の駅へ戻った。国道158は新と旧があり、新158を走行すると途中降りることが出来ずに”ななもり清見”までくる。二度目の道の里であるので、寄らずに高山方

面の旧158を再度チャレンジする。しかし、今から思えば新158(無料であるが有料道路ように信号はない。ただし、途中で降りられない)を戻って東海北陸自動車道を走行すれば早く到着した。旧158を走行して飛騨清見ICに入る。しかし、ここで行先を見誤って新158で3度”ななもり清見”に到着。

ヘルメットの中で”チックショー”とコウメ太夫のものまねをして3度目のアタック開始。道を覚えたので、かなりの勢いでバイクを走らせ3度目の飛騨清見IC。前回左に曲がって戻ったので、今回は右を選択。ようやく希望する道の選択が出来て千里浜方向は走り出した。東海北陸自動車道は白川郷を走るルートになるが、山間部を走る高速道路なのでトンネルが多い。8kmや11kmのトンネルがある。周囲が居同じ景色になると疲れている場合、感覚がマヒすることがある。なので、長いトンネルは要注意である。通常は片側二車線の高速道路であるが、トンネル内は上下の対面通行になる。対抗車が近くなるので、トンネル内ではできるだけ左側を走行している。翌日の新聞でこの高速道路のトンネル内でバイクと自動車の正面衝突の事故があったことを知った。バイクはSSTR参加の車両で、ゴール前で飛び出てきた対向車と正面衝突とのことであった。残念だがライダーは亡くなった。時間を考えると、私が走行した後の1時間以内での出来事の様である。ご冥福を祈りたい。私がもう少し遅れていた場合、私が事故にあった可能性もあったと考えられる。

長いトンネルをでると2車線になり風景も良くなるが、曇りで時間余裕があまりないので、先を急ぐ。レインスーツは着たままであるが、既に雨は止んでいる。疲れとレインスーツにより暖かいため、一瞬フラットすることがあった。フラットした際、左車線から右車線に移動したが、横に車が居なかったことが幸いした。気を引き締めて千里浜を目指した。

18:30近くに漸く千里浜の入り口に到着。入口からゴールまで8kmの砂浜を走行する。18:30近こともあるのか周囲には私以外に2台のSSTR参加者がゴールに向けて徐行して向かう。途中、砂浜がふわふわの部分にハンドルをとられながら、すすむ。ようやくゴールが見え人影が増えてきた。ゴール直前ではカメラマンが手を振るように指示してきたので、手を振りカメラ映りが良くなるよう紳士顔で走行。ゴールポイントでは、主催者側の係員が手を振り”おめでとう”と声をかけて歓迎していただいた。こちらは、左手で親指を立てて合図すると、係員も親指を立て答えてくれた。ゴ

ール当日の26日は雨天となっていたため夕焼けは見ることはできなかった。しかし、翌日は晴天となったので、18:00に再度千里浜に行き記念写真を撮った。



本写真の様に夕焼けの中ゴールできるよう来年もチャレンジする。SSTR 10周年の記録証も入手した。



～ 番外編 能登半島1周の旅 ～

翌日は、能登半島一周の旅を決行。観光というより、1周することに重きを置いたツーリングである。能登の風景を何点が記載する。



北海道のようにまっすぐな道。都会では見られない。また、夫婦岩のパワースポットがあったので目視確認した。説明文によると左側が女岩、右側が男岩、その中間に位置す

る小さいのが子供岩とのことである。なぜその様に命名されたかは、ご想像の通りである。



走行していると白米千枚田が見えてきた。現地案内板には枚数 1004 枚とある。ほんとにそんなにあるのか。



走行していると、何か見覚えのある形の岩が見えてきた。皆さんはなにに見えます？



しかし、この撮影後、バイク右側転倒。カウルが割れた。忘れることの無い思い出になった。



正解を右写真に示します。良く見ると目まであり、最後に能登半島のほぼ先端にある道の駅の”狼煙”。ここでは、記念にステッカーを購入。



SSTR 参加の多くのライダーが寄ってきていた。SSTR 地域経済の活性化にも少しは効果があると思う。さて、来開催の最終日になると、付近の宿泊施設は全て満室になる。年も準備して参加！

2023 SSTR 470kmの旅

～降水確率 100%のバイクツーリング～

前嶋 満 (技術士：電気電子)

毎年5月に開催されるイベントである SSTR(Sunrise Sunset Touring Rally)に参加するため、2月12日6:40にpcを前にして、イベント受付まで待機する。年々増加する参加者の影響で受付開始しても、イベント受付状態になるまで待機となる。少しでも接続確率を高めるため、pcで2画面、ノートpc、ipadを使用し、4台で同時アクセスを行った。30分経過後に無事接続でき、エントリー完了。SSTRは、エントリー受付も競争である。SSTRとは、日の出とともに東海岸で自分が指定した場所をスタートし、日没までに日本海側の千里浜なぎさドライブウェイ(石川県羽咋郡)にゴールする単純明快なイベントである。ルールは、高速のSA/PAで1ポイント、道の駅で2ポイント、各県で指定の道の駅3ポイントを集めて、合計で15ポイント以上を集めてゴールするものである。ルールは単純であるが、バイクにゼッケンを張って走行するので、同じ目的を持つライダー同士で初対面でも会話したり、走行中に手を挙げて挨拶しながら走行となる。普段では味わえない特別な感覚である。エントリー後は、宿の予約を行う。イベントは5月20日～5月26日間で合計10,000台が集結するため、千里浜宿泊施設周辺はすぐに満室となる。天候を気にしながら人気の高い民宿と昨年も御世話になったビジネスホテルを予約。これであとは当日を待つのみである。出走予定の5月23日の天気はそれまで雨天予報であったのが、晴に変わった。これは“普段の行いの成果だ”と考えていた。しかし、23日が近づくとつれづれ雲行が怪しくなり、明日出走の予報は“100%の確立で雨天”となった。これが“本当の普段の行いの成果か”と思いながら床についた。

▶5月23日3:11 出発

雨音のする中バイクに荷物を積載。昨年同様に辺りは暗闇の中、バイクのイグニッションキーを回しセルスタートボタンを押す。眠りから覚めた4気筒V型エンジン始動し、太いエキゾーストノイズで雨音を切り裂く。ギアを1速に入れ、2023年SSTRが始まった。



図1 深夜に目覚める相棒

今年の東海岸のスタート地点は、江の島に近い海岸の駐車場とした。江の島は22:00-5:00間車両通行止めなので、日の出前に入ることは出来ない。日の出時間は4:35頃であるが、雨天なので日の出は無い。日の出の時間を過ぎた4:42にSSTRシステムに現在位置(GPS連動)とスタートを入力。次の目的地、箱根峠を目指した。



図2 スタート地点

箱根峠には、西湘バイパスを通り、箱根新道で向かう。この辺りでは、SSTR参加者とはまだ1人も遭遇していない。平日雨天の影響と思われるが、1人も合わないと日付を間違えたのか?とも考えてしまう。雨の走行ではあるが、あまり強くは降っていない。箱根の山は西湘バイパスから見ると、雲が立ち込めていた。

▶05:37 道の駅 箱根峠

箱根峠は大雨かと考えていたが、実際には霧雨程度で視界も問題無い状態であった。

バイクには、バイク用ナビを取り付けて走行している。しかし、このナビは、たまに無い道をご丁寧に案内してくれる。地図上では西湘バイパスを走行しているが、交差点が無いにも関わらず“100m先を右折”と表示される。道が無いのに案内するのは、やめていただきたい。正しい案内が出来ない場合は、携帯の地図で方向確認を行う。世話のやけるナビである。箱根峠の次は、御殿場を抜けて“道の駅すばしり”を目指す。昨年も寄った道の駅である。

▶07:16 道の駅 すばしり

ここからは、高速道路を走行して、松本インターに向かう。昨年は山中湖を抜けて“道の駅富士吉田”に寄ったが、山中湖付近で通勤時間と重なり渋滞の中を走行した。今回は、時間的に余裕を持って千里浜ドライブウェイに到着するため、高速で移動することにした。ここまでくると、SSTR参加車両が次々に現れる。様々なバイクで同じ目的地を目指す。この駐車場で私の隣に駐車したバイクは、どう見ても125ccの排気量である。125ccは高速が利用できないので、全て下道での走行である。同じ時間、場所にいるバイクで、同じ目的地を目指すのに私は高速走行で間に合わせるのに、高速使用できないバイクで日没まで千里浜まで行けるのかと疑問に思う。松本から高山に移動するのも、途中で長い安房トンネルがあるが、ここは有料で

125cc 未満は乗り入れできない。心の中で”がんばれ”と言いながら、出発した。昨年より1時間早い出発である。

須走 IC より東富士五湖道路、中央高速を使用して松本 IC を目指す。昨年は累積ポイントが最低値であったので、今年は多少集めることとした。松本 IC まで9カ所の SA/PA がある。この PA/SA をすべて停車して、ポイントを集めることにした。毎回停車していると、同じ考えの SSTR 参加者と毎回遭遇する。目的地が同じなので当たり前であるが、少し早くこちらが出発しても結局同じ道の駅で遭遇する。グループでの参加もいいものだと思う。

▶12:03 道の駅 風穴の里-----

ここまでくると、駐車している多くのバイクに SSTR のゼッケンが張られている。バイクを駐車できる場所を探さないと止められない状態である。小型から大型、カスタムしたバイクが数多く駐車している。バイクの展示場より多い車種がある。眺めていても面白い。昨年この道の駅に到着したのが、11:43。20分昨年より遅れての到着。すべての SA/PA に寄ったこと及び、雨による速度制御が影響した。昨年は日没30分前にゴールしたので、このままでは日没に間に合わない。少し焦りを感じながら、出発した。ここからは、昨年と通った高山市は通らず、奥飛騨を経由するコースを選択した。これは、高山経由のコースでは、8kmと10kmの長いトンネルがある東海北陸自動車道を通ることになるので、それを避けるためである。長いトンネルで景色変化が無い道路を走行していると、疲れている場合には間隔が痺痺することがある。これは、私だけなのかもしれないが、走行する上で危険と昨年感じたので今年は別ルートを選択した。奥飛騨ルートは緑豊かな山間を走行するので、景色を楽しみながら気分良く走行できる。途中同じ SSTR に参加の車両が居て目的地が同じと考えたので、道案内としてついていった。しかし、途中で道を間違えて停車。私も道が行き止まりであるため、し折り返してきた道に戻る。途中道案内としていたライダーがこちらを見て”正しい道はどこ?”と顔で聞いてきたので、”私もわからん”という顔をして回答した。

▶13:27 道の駅 奥飛騨温泉郷上宝-----

天候は回復。天気予報通り、奥飛騨からは晴となった。レインウェアはまだ水たまり飛沫影響を考慮して考えそのままとした。ここで今回初めて参加の方に声をかけられた。世田谷から参加とのことで、私とあまり変わりはない。バイクの免許を新しく取得し、今回 SSTR に参加とのことであった。また、ハーレの2人組の方にも声をかけていただいた。皆笑顔で SSTR ツーリングを楽しんでいた。このような交流があることが、このイベントの良さである。

▶14:15 道の駅 スカイドーム・神岡-----

ここでは日が差してきたので、他の多くのライダーと同様にレインウェアを脱いだ。風が気持ちよかったことを覚えている。

既に14:時を回っているのに昼食を取るライダーもいた。私は日没までにゴールしたい気持ちなので、昼食無しで出発することとした。皆がピットインしている間に周回を重ねるのも、作戦の1つである。(ただ、慌てているだけかもしれないが)



図3 昼食無しと決めた道の駅

ここでは、カミオカラボが近くにあるので、帰りにも寄ることとした。(17:00以降は全て営業終了で見学も不可。残念!)

▶15:09 道の駅 細入-----

ポイント入力作業のみですぐに出発。ただ、雲がでてきて、今にも一雨ありそうな天気となった。少し悩んだが、天気予報を信じてそのまま発進。しかし、2分と走行しないうちに夕立のような大雨。近くに陸橋の下に避難し、レインウェア/グローブ/ブーツカバーを装着。道の駅で少し待っていればよかったと後悔した。ここから先は、少し距離が離れた高岡市の道の駅”万葉の里”を目指す。ここは、指定の道の駅なので、外すことは出来ない。日没の7時10分も迫っているのに、富山市にてから高速を使って高岡市を目指す。残り、4時間。

▶16:38 道の駅 万葉の里 -----

トイレ休憩のみですぐに出発。後3つの道の駅を立ち寄り予定。しかし、残り2時間30分程度しかない。よって、次の道の駅であるメルヘンおやべ(おやしではない)の到着時間を見て、判断を行う。早速出発。

▶17:10 道の駅 メルヘンおやべ-----

残り2時間。やはり、1つ道の駅をパスすることとした。よって、ここでは、バイクからも下りずにポイント入力のみを行って出発。道はナビに任せていたが、この後とんでもない道を案内される。ナビは、常に最短距離を案内する。よって、その道の幅がどれくらいなのかは、全く感知していない。今回、最後の日の駅となる”高松”を入力すると、国道→県道→市道?とだんだん狭い道を案内され、茂みの深い道となっていく。木々が多くなり日が遮られるので、辺りは薄暗くなっていく。道路幅も軽自動車も通れないような道になっていく。舗装はされていたが、いつ砂利道になるか分からない道を徐行で走行。しばらく走行していると、広い道となり一安心。しかし、速度が落ちた分、時間がかかっている。日没まであまり時間が無い。よって、ここからはタイムトライアル走行で急行する。地方の田畑が散見される道で回りに何も無い道路。制限速度標識が無い



ので、法定速度+αで急いで道の駅に向かう。途中地元の車を前方に見つけるが、地元の車もそののりの速度で走行している様で、バイクで追いかけても距離が縮まらない。地元の車、恐るべしである。

▶17:43 やっと最後の道の駅 高松 -----

タイムトライアルの効果で短時間で到着。ここから、最終目的地の千里浜ドライブウェイのゴールは、ノンストップで30分程度。少しゆっくりして休憩を取った。同じ目的地を目指すライダーも散見される。土曜日になると多くのSSTR参加者により、この道の駅から渋滞になるとのこと。本日は火曜日なので、人は少ない。ゴール目前になると、今回のSSTR出発時の雨天や突然の雨、綺麗な景色などの記憶がよみがえってくる。



図4 タイムトライアル後の休憩

さて、最後の目的地である千里浜レストハウスに向かう。

ゴールは、ここから6.5km先の今浜ICで降りて、千里浜を8km走行した先にある。道自体は昨年走行しているので把握済。千里浜の入り口では、途中の道の駅で声をかけていただいたライダーも到着。お互いに間に合ったと笑顔で挨拶。千里浜の入り口を過ぎると、そこからは、砂浜になる。この砂浜は毎年浸食により狭くなっているとのこと。砂を入れている様である。砂浜を走行していると、多くのライダーが夕日をバックに写真を撮影を行っている。昨年は、雨天でのゴールであったため、辺りは暗く人も少ない状態であった。それも、今年は夕日が見える状態でゴールすること夢となっていた。途中の砂浜で私も1枚記念撮影。なぜか、逆光の写真は、デジカメよりiPhoneの方が綺麗に撮影できる。



図5 2023.06.23 SSTR 完走の夕日

千里浜入口からはSSTRのゴールは、8kmもあるので目視出来ない。左からは、確度的にもいい感じで夕日が差してくる。雨天で最悪の出発であったが、今は晴れた最高のゴールとなる。やはり“普段の行いのおかげ”である。

▶18:30 千里浜レストハウス-----

「SSTR FINISH ゲートを通過。ゴール！！！！」
上は青空、左は夕日による金色に光るさざ波、下はまるで砂金とも間違つかの金色の砂。この金色の砂の上を走行し、無事完走となった。ここに来るまでの苦労や疲労などが一発で吹き飛ばす感動は、参加したものが感じ取ることができるものである。話を聞いただけでは伝わらない、見学したかきでも伝わらない、実際に参加して走破したものが勝ち取る感動である。この感動を得たいため参加している。また、1日で500km近く走破するので、“若い”とも言われる。そうかもしれない。この500km近い走行を行うSSTRに毎年参加することで、体力を計っているのかもしれない。



図6 2023 SSTR 18:30 ゴール！



図7 2023 SSTR 完走記録証

SSTRは、苦労と楽しみを味わいながら参加するイベントである。技術士業も同様に苦労もあるが楽しみながらできる職業である。今後も様々方面でチャレンジを行いながら、仕事を楽しむこととする。そしてSSTRは来年もチャレンジ！